

製品名: PSK-H1 ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab16604**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、マウス
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:50-1:200,ELISA 1:10000-1:20000
分子量	48kDa

抗原情報

遺伝子名	PSKH1
別名	PSKH1; Serine/threonine-protein kinase H1; Protein serine kinase H1; PSK-H1
遺伝子 ID	5681.0
SwissProt ID	P11801
免疫原	抗血清はヒト KPSH1 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 261-310

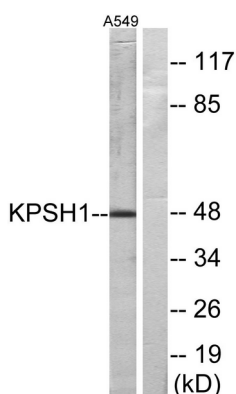
背景

触媒活性: ATP + タンパク質 = ADP + リン酸化タンパク質。、酵素調節: 活性は Ca(2+)濃度に依存する。、機能: 核内 SR タンパク質 (セリン/アルギニンに富むドメインを含む非 snRNP スプライシング因子) の輸送および pre-mRNA プロセッシングに関与する SFC 関

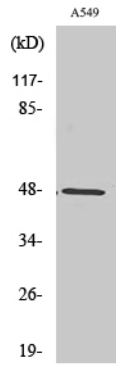
連セリンキナーゼ (スプライシング因子コンパートメント関連セリンキナーゼ) である可能性がある。、PTM: セリン残基が自己リン酸化される。、PTM: ミリスチル化される。膜結合に必要。パルミチル化が起こるための前提条件。、PTM: パルミチル化される。、類似性: タンパク質キナーゼスーパーファミリーに属する。CAMK Ser/Thr タンパク質キナーゼファミリー。、類似性: 1つのタンパク質キナーゼドメインを含む。、細胞内局在: プレフェルジン A 感受性ゴルジ体、中心体、核内にややスペckル状に存在し、小胞体 (ER) と細胞膜 (PM) に膜結合し、細胞質内にはより拡散して存在する。間期細胞の核内のスプライシング因子コンパートメント (SFC) に集中することがわかっている。アシル化陰性型は細胞質と核にのみ存在する可能性がある。アシル化により細胞内膜への隔離が可能になると思われる。ミリスチル化は細胞内のゴルジ体以外の膜への標的化を媒介し、パルミチル化はゴルジ膜への標的化を媒介する可能性がある。ゴルジ膜との相互作用を安定化するには、二重アシル化が必要です。、サブユニット: ホモ二量体。、組織特異性: 試験したすべての組織および細胞株で発現し、精巣に最も多く存在します。、触媒活性: $ATP + \text{タンパク質} = ADP + \text{リン酸化タンパク質}$ 。、酵素調節: 活性は Ca^{2+} 濃度に依存します。、機能: 核内 SR タンパク質 (セリン/アルギニンに富むドメインを含む非 snRNP スプライシング因子) の輸送および pre-mRNA プロセシングに関与する、SFC 関連セリンキナーゼ (スプライシング因子コンパートメント関連セリンキナーゼ) である可能性があります。、PTM: セリン残基が自己リン酸化されます。、PTM: ミリスチル化されます。膜結合に必要です。パルミチル化が起こるための前提条件です。、PTM: パルミチル化されます。、類似性: タンパク質キナーゼスーパーファミリーに属します。CAMK Ser/Thr タンパク質キナーゼファミリー。、類似性: 1つのタンパク質キナーゼドメインを含む。細胞内局在: プレフェルジン A 感受性ゴルジ体、中心体、核内にややスペckル状に存在し、小胞体 (ER) と細胞膜 (PM) に膜結合し、細胞質内にはより拡散して存在する。間期細胞の核内のスプライシング因子コンパートメント (SFC) に集中することがわかっている。アシル化陰性型は細胞質と核にのみ存在する可能性がある。アシル化により細胞内膜への隔離が可能になると思われる。ミリスチル化は細胞内のゴルジ体以外の膜への標的化を媒介し、パルミチル化はゴルジ膜への標的化を媒介する可能性がある。ゴルジ膜との相互作用を安定化するには、二重アシル化が必要です。、サブユニット: ホモ二量体。、組織特異性: 試験したすべての組織および細胞株で発現し、精巣で最も多く存在します。、

研究分野

画像データ



KPSH1 抗体を用いた A549 細胞ライセートのウェスタンブロット解析。右レーンは合成ペプチドでブロッキングされている。



PSK-H1 ポリクローナル抗体を用いた様々な細胞のウェスタンブロット解析